

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500198		
法人名	株式会社 ほんじょう会		
事業所名	みどりの郷 ほんじょう		
所在地	大分県佐伯市本匠大字笠掛1589番地1		
自己評価作成日	平成29年2月25日	評価結果市町村受理日	平成29年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;lievosvoCd=4490500198-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;lievosvoCd=4490500198-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	平成29年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『風光明媚な本匠の地に、ようこそ!』とお迎えすることから私たちとご一緒に暮らしを始めています。ホーム周辺には桜の木を植樹してあり、満開の時期には毎年、居室からも戸外に出ても入居者の目を楽しませてくれます。ホーム菜園では、今年も野菜作りが始まっています。今年は既にエンドウ豆、玉葱、ジャガイモ、ほうれん草、サラダ菜を作付してあり、早くも新玉葱が食卓に上っています。四季折々の野菜類の献立はグループホームほんじょうの自慢の一つです。日常の暮らしの中でのレクリエーションなど余暇のほかに、当ホームほんじょうのもう一つの特徴にイベントがあります。昨年は夏祭り恒例大運動会を開催しました。夏祭りではヨーヨー釣りやゲーム、模擬店などのお楽しみの食べ物の提供など、童心に戻り夏を惜しむかのような祭りとなりました。大運動会は昨年に続いての開催で恒例行事となり風船割りゲーム、徒競走、綱引き、パン食い競争など職員と入居者で作上げる企画は大いに盛り上がります。職員は「共同生活での自分らしい自由な暮らし方は何か」、「その人らしさを損なわない支援とはどんなものか」を常に思考し、ひとり一人に家族同様に温かい心で接するよう日々の介護実践に取り組んでいます。隣接するサ高住と共に『住み慣れた我が家が生きていきと、そしていつまでも!』を合言葉に、「地域に明るく自然な佇まい」を目指したホームづくりを目指して、「おかしなさい!」が似合うホームが私たちの目標です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「人に、地域に、誠実に向き合う。」6施設を有するみどりの郷介護事業部内、2ユニットの施設であり、山間の長閑な環境と、近隣の幼稚園・小学校・中学校との交流、多事業所との協力の営みなど、地域に根差す施設運営も特徴の一つと言えます。心身機能の保持と日常的なケアの実践においては、生活リハビリファイル・生活リハビリチェック表の活用による職員間の周知が図られており、継続的な支援に共に励む職員の様子が伺えました。医療連携(専任看護師・個のかかりつけ医を大切にした診療・往診)への体制づくり、利用者や家族のニーズ・思いの尊重と課題の把握と今後の援助への意欲表明など、寄り添える援助への取り組みの姿勢が見受けられます。利用者の尊厳を大切に、趣き有る姿(興味・趣味など)が息づく日常の暮らしを支持・支援しており、身心の健全保持、安心感の抱ける施設づくりが図られています。個の職員の力とチーム連携の強化、地域密着型施設としての役割りへの探求と実践を今後の成長課題と捉えるなど、管理者の姿勢に、今後の営みへの大いなる期待が持たれます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人共通理念の下、事業所ならではの理念を作成し、朝礼時にスタッフ一同で唱和し意識を高める取り組みを行っていることで、ほぼ全員に浸透している。	基本理念<和>を支援の糧にチーム支援への取り組みを深める姿勢が伺えます。会議(毎月)において、利用者の現状の把握と職員間の周知に努めており、理念に沿った介護の検討を日常の暮らしの営みに繋げています。	個とチーム力向上の視点より、理念の実践に根差した目標・各種計画(年間)の仕組みづくりに期待します。地域密着型サービスの意図する支援、理念<和>の可能性について全職員の共有を希望します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職場体験学習イベントを通じて保育園、幼・少・中学校との交流を図っている。入居者が施設周辺の散策の際はお互いに手を振る姿も見られる。	地域のサロンとして、ほんじょうカフェ(年4回)の継続的な取り組みや、夏祭りなどのイベントを介した地域交流に努めています。管理者は「敬意を持って安心を」の果たす支援における地域との繋がりを大切に捉えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年三回程度、地域の方々との茶話会を開き、健康相談や近況報告などを行っている。当初は馴れなかつた茶話会であったが、今では次回の開催日を尋ねられるようになり、楽しみにされているようだ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の意見を伺い、それをサービス向上に活かせるよう努めている。ホームでの生活ぶりを映像に収め、共有している。また、ホームの広報誌を活用した実情報告や地域への広報を積極的に行っている。	行政・地域有識者・家族代表による多数の出席者との交流を深めながら、施設の現状の把握と意見交換における相互の情報の共有、協議が図られています。地域間交流・家族の思いの反映を、相互連携へ繋ぐ営みの姿勢が見られます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居相談を受けたり施設見学に来ていただき、常に情報交換を行っている。特に包括支援センターには運営推進会議に出席を要請し意見を求め、家族代表者や民生委員、区長代表、地域コーディネーターからのアドバイスを運営に活かしている。	公的な各種機関との関係づくりにおいては、その内容の必要性に応じて電話や訪問での連絡(伝達・相談)が行われています。アドバイスを受けるなど、交流・相互の連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車椅子は移動手段のみに使用している。食事の際はテーブルの椅子に移動してもらっている。玄関の施錠は行わず、入居者の出入りは自由に行っている。	利用者の行動パターンや癖、仕草の把握、変化への気づきを支援に繋げています。職員間の情報共有と質の均一化の視点を支持しており、行動を制しない支援への、取り組みが行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に若いスタッフの学習会を開き、言葉遣いなど接遇についての学びの場を設定し、目標としてスピーチロックの排除を掲げ入居者の平穏を心掛け支援している。虐待防止に係る研修等に積極的に参加し復命研修等による共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入居者で制度活用者はいないが、制度理解のための学習の場は法人グループ全体の合同学習会である「人権研修会」定期的な研修を行い参加、啓発を図っている。職員の共通意識のレベルアップを図るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居又は入居契約の際には十分に説明を行い、承諾を得、その内容に対する理解と納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で入居家族や運営推進委員の意見や要望などを伺っている。写真や映像で暮らしに対する理解を得て、モニタリング時に本人やご家族の意見を反映できるよう努めている。家族には行事等に参加していただき、日常の様子がわかる機会を設けている。	家族会と行事(大運動会と一緒にお弁当)の同時開催や、面会時の相互間の交流に努めています。ほんじょう通信や電話での近況報告による情報の共有や意見交換も図られており、個性の尊重と折々の思いの把握を大切に、支援への取り組みに努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少なくとも月に一度のカンファレンスの機会を設定し、その中で意見交換し、改善していく箇所を見直し実践に努めている。	会議(毎月)や日常業務にて、個々の職員の違い(意向・働き易さ)の発信・把握に取り組んでいます。また、管理者はグループホームの有り方の視点より、職員力の可能性においても提言しています。	サポート(目標達成)や人事考課への反映を視野に、全体研修計画や個別目標(支援・スキル)設定の仕組みによる、個とチーム力の向上に更なる期待が持たれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	固定給への変更や、資格取得を奨励支援し資格手当の付与、業績など総合的な評価に応じての昇給、介護職員処遇改善加算Ⅰを算定、所得の向上を図ることで就業意欲を高め、それぞれの目標達成をサポートしていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の状況は実際に現場を見る、又は管理者より報告を受け把握に努めている。研修への参加を通じてのスキルアップを図り、合同学習会や研修会(虐待防止、拘束廃止等)も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループのグループホームとの定期交流を行っており、入居者同士に交流の場にも参加してもらっているが、同業や事業所との交流はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談やモデルケアプラン、基本情報を確認し本人の要望や希望を伺うなどして、入居相談を受けた時点からの関係づくりに努めている。本人の希望や要望がかなえられるよう支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談するなどし、また管理者やケアマネジャーを通じて情報を受けことにより内容や状況を把握し適切な支援ができるように心掛けている。特に医療面での不安解消に向け専任看護師の面談を組むなどしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学を要請し安心を提供することから始まり、内容を管理者やケアマネジャーを通じて受け送りを行うなどして、そのサービス内容からもう一つ上のサービスができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「有する能力」を活かした支援への取り組みを心掛けている。配膳下膳、茶碗洗い片付け、掃除等ホーム内での自立へ向けた支援を実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに入居者の日常の様子を伝えるなどして、家族の方との良好な関係が築けるよう努めている。特に医療支援については受診状況報告書を提供し安心できる状況を作るように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある友人の面会や家族との外出、外泊など支援はできている。バスハイクでは馴染みの場所などに行き思い出話を語り合うなどの機会を設定している。	利用者と家族の思いの尊重において、相互の関係性を大切に、外出・外泊の相談・援助や外出時のふるとさ訪問が行われています。利用者と職員とのコミュニケーションにて、馴染みの関係や場所の把握に努めながら、支援活動に繋げています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないようにスタッフが声掛けし、レクレーションを一緒にするなどコミュニケーションを図るようにしているが、ソファに座ったままの状況が見られることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同系グループ施設への転居の場合は継続した支援を行うための介護で共有を図るなどし、例えば入院退去された方などには折に触れ面会するなど、可能な限り関係が継続する環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話や表情の変化などにより状況を把握するようにし、本人の希望に沿えるよう努めている。また意思疎通が困難な場合は家族の意見を求めている。	利用者の生活歴(興味・趣味)の把握と思いへの気づき(表現や仕草の変化)や、利用者同士の暮らし易さを考慮する支援を大切にしています。職員相互の情報の共有を図りながら、個の利用者の思いの支援・実践への取り組みの様子が伺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や基本情報を土台として、これまでの生活歴を聞き取り、ニーズの把握をしっかりと行い、より入居者に適した生活環境や支援サービスに努めている。職員間で情報の共有を図るため共通ファイルに綴じ込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や支援記録、送り等で日々の状況を共有周知し、入居者の現状を把握することに努めている。また問題解決のためのケース会議を不定期ではあるが開催し、状況把握に努めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者の下、計画作成担当者が中心となり家族や職員と話し合い介護計画を作成し、チームケアとの立場から複数人によるモニタリングとカンファレンスにて問題の解決に取り組んでいる。入居者一人ひとりのルームパートナーを配している。	毎月の会議により、現状の把握(カンファレンス)と職員相互の検討が図られています。計画の見直し(短期6か月・長期1年)では、更にパートナー職員と計画担当職員による協議の反映を策定に繋げており、全職員間での周知に取り組んでいます。利用者や家族の意向の把握に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ルームパートナー制を導入し、複数による日常の記録やカンファレンスなどで情報を共有し、実践に活かすよう努めている。実践効果が出ていると実感している。入居者の日々の変化を把握することに大いに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの店での買い物支援や外食などを定期的に行うなどして入居者の要望には対応するように努力しているが、柔軟に対応しきれない場面も否めない。隣接するサ高住との交流促進による効果的支援に努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する小中学校の児童生徒との交流ができ、入居者は楽しい時間を共有した。定期的な子供たちの訪問は入居者の喜びとなっているようだ。今後、地域交流施設等を活用した取り組みをさらに進めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望を重視し、かかりつけ医の変更はしないようにしている。また協力医療機関とも密接に連携し、定期受診を行うなど日常の健康管理に努めている。訪問診療も行っている。	入居者や家族の希望するかかりつけ医となっています。定期受診も行われ、医療機関とも密接な連絡協力体制が整えられています。利用者の状態に変化があった時には、電話連絡をして適切な対応をとられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制は現在、専任看護師3名態勢を敷き入居者の日常の健康状況等を把握するとともに、24時間連絡を取れる体制を敷いている。急変時等即応する指揮命令系統も構築でき、迅速な対応を実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的な面会を行うなど入院時の現状把握、回復状況の確認に努めている。また退院時は入院中の情報を聞き即応できるように努めている。また医師、看護師からの情報を退院後の支援に役立てるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者或いは家族の希望に沿えるように、予め書面等を作成し説明している。直近、終末期にあった入居の事実上の看取りを行った。また日常、職員の意識づけを行っている。今後も家族の終末期に対する考えや意思を伺う機会を持つようにしていきたい。	入居時に終末期における事業所として出来ることを説明し、利用者や家族の方の希望も聞いています。終末期には、家族・医療機関と密接に連絡を取りあい、事業所として出来る限りの支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導による救急救命や心肺蘇生方法などの講習会に適宜参加しスキルアップを図るとともに、今後定期的に学習した技術を反復復命する機会を法人単位で計画していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回実施する計画だ。3月中の実施に向けて計画を進めることとする。今回は消防職員の指導を受ける機会とし、消防設備の定期点検を実施し器具等の不具合のないことを確認したい。	定期的(年2回)に火災、地震等を想定した避難訓練を行っています。地域のニーズを勘案し、消防団協力事業所として平成26年にonoaki 防災チーム(PADOT)を発足、地域のための防災活動に法人として取り組んでいます。	避難訓練や各種研修における結果報告書の工夫と、活用(PDCAサイクル)による支援向上の仕組みづくり、全職員間での周知の徹底に期待します。訓練の際の地域連携・参加への取り組みを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心の尊重は最も大切になければならない。馴れからくる気の緩みでそぐわない対応をしていることを見かけた場合は職員間で指摘注意し関係性を持ち、意識を持って対応するよう努めている。	職員全員がそれぞれプライバシー等に関する研修を行う機会を設けています。日頃より意識を持って接するよう心がけ、気になることがあった時は職員間で注意しあえる関係性に努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話をよく聞き、いま何をしてほしいのかを把握できるように努めて、本人の希望がかなえられるように対応しているが、職員による認識理解にまだまだ温度差は否めない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れに沿った支援を行っているが定められたスケジュールが前提となり、可能な限りその方のペースを大切にしたいが入居者の希望に沿えていない部分が多い。自由な生活設計のための支援計画を図りたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着と寝衣の区別をつけるようにし、衣類や着衣については自己決定を促している。髪など整容について自力でできない入居者に対しては職員が対応している。散髪や美容カットは希望に応じて訪問美容師に依頼し、ホームにおいて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意見や希望、嗜好を聞いてメニューを決める時もあり、食に対する関心を高めたりしており、嗜好に沿った献立や手作りの食事のグレードは高いと思う。職員も一緒に食卓に着くなどして食事の楽しい雰囲気づくりに努めている。	食事については、とても充実した支援が行われています。施設内に畑があり、利用者の様子をみながら一緒に収穫し、好みや嗜好をメニューに反映させ、イベント食も充実されたりと利用者と職員も一緒に食事を楽しむことが出来る支援に取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の摂取量や水分量をチェックしている。食べやすくカットしたり嫌いなものや禁忌食材がある場合は別のものに変更するなど、彩りに工夫しながら楽しく召し上がっていただけるよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	共有スペースの洗面台において個人の歯ブラシや口腔スポンジを使用し、個々人の歯の状況に合わせてケアを行っている。今後も口腔ケア等口腔衛生研修会へは積極的に参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつゼロに取り組んでいる。現在はリハビリパンツ使用者いるものの、おむつ使用者はゼロである。継続していく。	排泄チェック表は、職員全員がすぐ把握できる体制が整えられています。自立に向けての支援は、事業所全体での意識も高く、利用者の様子を見ながらとても充実された取り組みがされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼るのではなく、毎日の散歩や音楽に合わせた運動等を取り入れ自力での排便誘導につながるよう支援している。食事でも工夫し繊維質の多い食材を活用したバランス良い献立で提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予め時間を設定して入浴を行っているが、本人の希望に柔軟に対応できているとは言えない。好みの時間に入浴ができればよいとの職員の意見に対応できる体制にしていきたい。入浴剤を適宜使った温泉気分の入浴も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の中には睡眠の浅い方や昼夜逆転睡眠の方もいるので、個々人の習慣に合わせた対応をしている。夕食後の団楽のひとつときはお茶を進めたりして安眠につながるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専任看護師の指示の下、で服薬管理を行っている。ファイルを作成し処方箋等を確認し誤薬のないよう努めている。体調の変化が見られる時は即座に看護師に連絡・相談し、指示を受けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションインストラクター資格者による楽しめるレクリエーション、カラオケなどを行うようにしている。入居者の得意な領域を組み込んだレクプログラムを設定し支援している。職業歴からの得意分野を役割として作業していただいたりもしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望により散歩に出かけたり、季節ごとの外出や歳時記に合わせたドライブの機会を設けている。また家族との外出の機会の支援を行っている。食材の買い出しを入居者と一緒にする機会も設け、外出を促している。	利用者の体調や希望を考慮された日常的な外出支援に取り組まれています。季節ごとにドライブの機会を設けたり、家族との外出の機会の支援を行っています。近くにお店がないため、移動販売に定期的に来てもらい、楽しみをもった外出支援が行われています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎土曜日午前には生協移動販売車の定期販売があり、自分で買い物を楽しめる方もいる。金銭感覚を失わないようにする援助方法の一つとしてとらえている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望や要望を聞き、家族等に電話などができるよう支援している。継続的な家族とのやり取りの成果として外泊ができるようになった入居者も複数事例できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけを工夫し、湿度や室温を調整し入居者が過ごしやすい環境になるよう工夫している。食堂やリビング等共有スペースの室温湿度管理には特段の注意を払っている。	共有スペースの温度・湿度、換気等に特段の注意が払われ、利用者が快適に安心してすごせるよう居心地のよい空間づくりに取り組まれています。利用者と職員と一緒に取り組み季節感のある空間づくりに努められています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスなどで気の合った入居者同士が談笑できるよう、また一人一人に合わせた時間を過ごせるように心掛けている。また季節ごとの設えに工夫を凝らせるよう努めている。この季節、ひな人形を飾っており、桃の節句を計画している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を置いたり以前に使っていた使い慣れた生活用品を使用するなどして、本人が過ごしやすい部屋づくりを心掛けている。職員と一緒に製作した自分カレンダーを飾ってある入居者もおおいでになる。	利用者の方の、馴染みのものを持ち込まれるなど、居心地のよい居室づくりに取り組まれています。家族の方の協力を得ながら、安全、安心してすごせる工夫をされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室を花の名前にしているが、名前の表記や分かりづらい部分は文字を大きくするなどの工夫をしていて、自分の部屋との認識づくりを誘導している。居室には家族の同意の上、個人名を掲示し、トイレも分かりやすく工夫している。		